

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (24)



～「自己肯定感」を高める支持的風土づくり～

沖縄県教育庁八重山教育事務所 指導班長 宮良 健

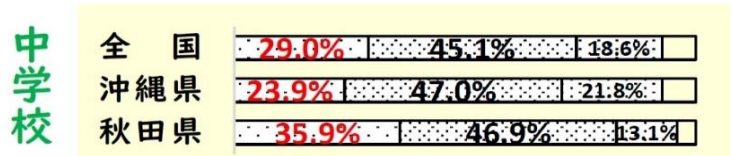
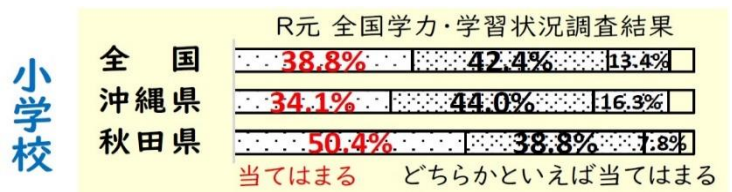
本県における学力向上推進の視点に「自己肯定感の高まり」があります。まさに石垣市が推し進める「勇気づけの教育」がそれに当たります。それは「児童生徒が、自分のよさや可能性を認識すること」を視点としております。自分のよさや可能性を認識することは、自己理解を深めると同時に自己肯定感を高め、そのことが主体的な学習や自分のよさを生かした目標設定や進路選択につながり、社会的自立に向けた力を育てます。

しかし、「自己肯定感」における調査結果(図1：令和元年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙)は、ご覧のようになっております。全国や学力先進地域の秋田県と比較すると、本県は「当てはまる」といった肯定的な回答の割合が低く、否定的な回答の割合が高くなっております。

そこで、本県では改善のポイントとして、①多様な考え、新たな見方や考え方を受け入れ、一人一人の考えや行動のよさを認め合う場を設ける。②児童生徒が自分を見つめる場や機会を設定し、長所や頑張りを認め、肯定的な気づきを促す。③集団活動の中で、個に応じた役割を設定することで、学級での所属意識を高める」とし、お互いを認め、励まし合う「支持的風土」のある学校・学級づくりを推進して

しております。これからの時代に求められる資質・能力について、学習指導要領の前文には「一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」とあります。本県が推進する「図2：支持的風土の4つのポイント(安心→所属→承認→自立)」にも関連します。「安心」は、児童生徒が安心して学校生活等を過ごせるために、規

【図1】
○「自分にはよいところがありますか」
(児童生徒質問紙)



「支持的な風土をつくる学校・学級経営」(沖縄県教育庁義務教育課)



「支持的な風土をつくる学校・学級経営」(沖縄県教育庁義務教育課)

「支持的な風土をつくる学校・学級経営」(沖縄県教育庁義務教育課) 児童生徒が安心して学校生活等を過ごせるために、規

範意識を醸成することが必要です。その際、きまりの意義や価値を児童生徒が実感することが大切です。

「所属」は、安心できる集団の中で、他者へ貢献したり、他者と協働して何かをやり遂げる機会、自治的な活動が展開できる環境（組織の整え）を意図的にしかけ、主体性や協働性を育むことが大切です。「承認」は、授業中をはじめ、様々な活動の場面で、一人一人の努力や成長、貢献を丁寧に見取り、具体的に承認・勇気づけのメッセージを伝えることが大切です。その際、大人から児童生徒へ、多様な形で承認を得られる工夫が必要です。「自立」は、承認を通して気づいた自分の良さや可能性をもとに、将来の夢や希望、そのための具体的な目標を設定することで、目的意識を育むことが大切です。また、日々の授業をはじめ、学級活動や地域行事等において、活動後の「振り返り」を行うことで、自身の成長等につながっていることを実感させることも大切です。

さて、5年後、10年後の社会はどうなっているのでしょうか。新型コロナウイルス感染症は、予測困難な時代の到来を私たちに突きつけました。だからこそ、主体性や協働性といった力が求められています。支持的風土づくりは、他者とのつながりを通して、児童生徒の「社会的な自立」に必要な力の育成を目的としております。まずは私たち大人から子どもへ、日常的に勇気づけの声かけを行いながら、支持的風土づくりのお手本を示していければと考えております。子どもの自己肯定感を高めるためには、子どもに関わる全ての大人の協力が必要です。未来の担う子どもたちの健やかな成長のために、「勇気づけの教育」の土台となる支持的風土づくりを、ご家庭や地域でも推進していただきますようお願いします。